いぶやの社（もり）

第８号
令和４年７月
揖夜神社
総代会

※式内社とは、延喜式神名帳に記載された神社をいい、完成時点で確実に存在したことがわかる、歴史ある神社です。

式内社　市原神社（いちのはら）

市原神社は、市原地区の丘陵にひっそりと鎮座される神社です。

この社（やしろ）は、天平五年（七三三）に編纂された出雲風土記の出雲国造第一巻首の中に記載される古い歴史を持つ社で、延喜式神名帳（えんぎしきじんみょうちょう）（九二七　完成）にも記載されている式内社です。

この神社は、尼子氏がこの地で戦い、兵火で焼亡したといわれています。その後、嘉永四年（一八五一）地元の三島三郎右衛門氏が御社土（おやしろ）地を寄進するなど中心となり再建されましたが、明治四三年八月に**揖夜神社境内社**として移転されました。

しかし、市原地区の懇請により四一年後の昭和二十六年九月、元宮地へ遷移された神社です。

社の近くには荒神さんや前方後円墳があり、今は、地域の人により大切にお守りされています。

御祭神は
大山祇命（おおやまつみのみこと）　金山彦命（かなやまひこのみこと）　金山姫命（かなやまひめのみこと）です。

※揖夜神社並びに境内社の韓国伊太氐（からくにいたて）神社も式内社です。

尾剣摩（おけんま）神社（歯形森尾剣摩さん）

金山地区の葉賀多森（はがたもり）に鎮座される尾剣摩（おけんま）神社は、オロチ退治の神話にちなむ伝説がある神社です。上意東の立石神社で素盞嗚尊（すさのおのみこと）が休憩したあと、尾剣摩（おけんま）神社にオロチから得た神剣（しんけん）をもって立ち寄り、ここで産する砥石（しょうし）で剣（つるぎ）を磨いたと伝えられています。この小祠を地域の人は、「ハガタモリオケンマさん」と呼んでお守りされています。

歯形森は、葉賀多森（はがたもり）或いは波形森（はがたもり）とも呼ばれ、近くには弥生時代の住居跡もあり、田の中から当時のものと思われる土器が多数出土したといわれています。歯の神様としても伝えられ、境内には歯形を思わせる島石が多数奉納してあります。また、少し下った谷の上（かみ）と下（しも）に受摩森（うけまもり）と呼ばれる神域があり、揖夜神社の正月三日の「御田打」の祭事も古くはここで行われていました。

祈年祭・福神祭

令和四年四月十九日（火）午後三時より、春の暖かな日差しの中で、今年一年の五穀豊穣を祈願する「祈年祭」と、福縁を授かるようお祈りする「福神祭」が斎行されました。

拝殿では奉賛会により感染防止対策を徹底し、福引抽選会が行われました。特等から六等までの景品や栗饅頭引換券、精米等が陳列されて華やいだ雰囲気の一日となり、多くの参拝客で賑わいました。

総代参列の中、仮殿（神楽殿）で祭典が始まりました

出雲と都を結ぶ道 ―古代山陰道―

島根県立古代出雲歴史博物館（企画展）

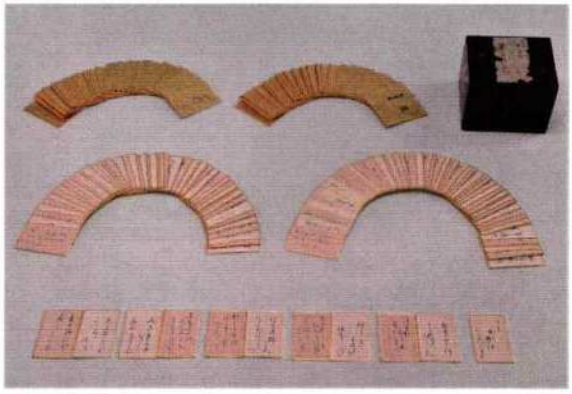
令和４年３月１８日～５月１５日に古代出雲歴史博物館で開催された企画展で**揖夜神社所蔵**の次の品が展示されました。箱書によると昭和３年３月に松平家より寄進されました。

伊勢物語　※縦 16.7 ㎝　横 15.8 ㎝

（写真提供：島根県立八雲立つ風土記の丘）

『伊勢物語』は平安時代の歌物語である。在原業平を思わせる人物を主人公とした歌にまつわる物語集である。本作品は木箱に収められているが、箱表の貼紙には養法院の筆によるものと記されている。養法院は松江藩家老平賀縫殿の娘で、松江藩第二代藩主松平綱隆の側室となり、第四代藩主吉透を産んだ。公家の中院家に和歌の指導を受けるなどの交流があったと考えられている。

（企画展より）



加瑠多　※縦 7.3 ㎝　横 4.5 ㎝

（写真提供：島根県立八雲立つ風土記の丘）

『伊勢物語』所収の歌のうち、冒頭からの百首を上の句と下の句に分けて記した「伊勢物語かるた」の一種である。箱表の貼紙には上の句は寶山院、下の句は養法院の筆によると記されている。寶山院は松平綱隆である。松平綱隆は松江藩初代藩主松平直政の長男で、寛文六年（一六六六）に家督を継いだ。松江藩家中の基本法令となる法度を発布したり、家臣団の編成を行うなど、藩政機構の確立に努めた。加瑠多の表面には和歌が、裏面には漢数字が記されている。なお、かるたは合計二〇一枚あり、別につくられたかるたの一枚が混入したものと考えられる。

（企画展より）

揖夜神社の歴史 その一

当社は、日本書紀をはじめ数々の歴史書にあるように古くからの由緒書正しい格式の高い神社です。これから 歴史書・古文書・棟札などをご紹介しながら揖夜神社の歴史の一部を紐解いていきたいと思います。

『その一、黎明期』

式内社調査報告書には次のように記載されています。

『当神社は、出雲國内に数ある神社の中でも、最も早くからその名を史上に現してきた神社である。すなはち日本書紀齊明天皇五年（六五九）の條に「是歳命出雲國造 修嚴神之宮、狐嚙斷於宇郡丁所執葛末而去、又狗嚙置死人手臂於言屋社《言屋、此云伊浮瑯。天子崩兆。》」（現代語訳＝この年、出雲国造に命ぜられて神の宮を修造させられた。そのとき狐が、意宇郡の役夫の取ってきた葛を嚙み切って逃げた。また、狗（＝犬）が死人の腕を、言屋社のところに嚙って置いていた。天子の崩御の前兆である。）とあるが、これは風土記撰進の天平五年（七三三）を遡る七十四年もの昔で、これ以前となると、わずかにかの出雲大神の宮に関する記事が、いはば神話との未分化の形で出てくるのみである。

ところで、この記事であるが、狗（＝犬）が死人の手臂［腕］を嚙み置いたという、当時としてはままあったかもしれない一つの事件を、たまたまその場所が言屋社という特定の社であったがために、直ちに中央政府に注進したところ、官人はこれを天子崩御の兆しであるとしたというのは、一体何を意味するものであろうか。もちろんその真相は知り得べくもないが、ただ想像していえることは、この社がかねてそうした、人の死とか霊とかに格別かかわりのある社であると信じられていたからであろうということである。』

千三百年以上も前の不思議な話ですが、揖夜神社が歴史上初めて出てくる一文です。

※下記は揖夜神社関連年表（由緒書・東出雲町誌より）

	和暦	西暦	内容
飛鳥	斉明天皇五年	六五九	日本書紀に「言屋社」の記述
	貞観九年五月	八六七	従五位上の御神階を賜う
平安	〃十三年十一月	八七一	正五位下の御神階を賜う
	承安二年九月	一一七二	三位大宅助澄　別火職に補任
	建久十年四月	一一九九	大宅宗澄　別火並上官職に補任
鎌倉	建保三年三月	一二一五	大宅為澄　五位職に補任
	寛元元年四月	一二四三	大宅為澄　別火職に補任
	暦応五年四月	一三四二	大宅頼澄　別火職に補任
	正平十年六月	一三五五	大宅綱澄　別火職に補任
室町	天文十年	一五四一	尼子晴久　**遷宮を行い**、宮後の山に松千本植える
	天文十二年三月	一五四三	大内義隆　太刀神馬を進献
	〃　九月	〃	大内晴持（大内権現）揖屋灘で溺死
	〃二四年二月	一五五五	尼子晴久　出東郡氷室の内百貫地を寄進
安土桃山	天正九年	一五八一	**揖夜神社天火にて炎上する。**
	天正十年	一五八二	毛利元秋　再建着手、軸立で本殿を後方に定る
	天正十一年十一月	一五八三	〃　社殿建立
	慶長六年四月	一六〇一	堀尾吉晴　社領四十石を寄進
	元和二年十一月	一六一六	堀尾忠晴　○社殿再健立　※棟札記載の通り
江戸	寛永十一年九月	一六三四	京極忠高　社領を安堵
	〃十四年五月	一六三七	〃　○社殿修営
	寛永十五年十二月	一六三八	松平直政　社領四十石を定め、年中の祭事執行
	寛文八年九月	一六六八	松平綱隆　○藩費造営
	延寶五年二月	一六七七	松平綱近　五十二石一斗三升六合の神領
	寛政十年十一月	一七九八	松平治郷　○藩費造営
	文政十年十一月	一八二七	松平齊貴　○藩費造営
	嘉永三年十一月	一八五〇	〃　○藩費造営
	明治八年	一八七五	○本殿修繕
現・近代	明治三二年五月	一八九九	○本殿修覆
	大正十五年十一月	一九二六	○縣社昇格奉告祭
	昭和九年五月	一九三四	○**新築（本殿、中門、拝殿、本殿並びに中門透塀、境内社四社）**、改築修繕（神楽殿、社務所）
	昭和三十五年	一九六〇	○修覆（本殿・拝殿・境内社二社）
	平成六年五月	一九九四	○本殿修覆、新築（神楽殿、社務所）

○は現存棟札
・大宅（おおや）は井上宮司の祖先
・別火職は上官神職
・補任は任命のこと

舞踊の奉納
（花柳（はなやぎ）　琴臣（ことおみ）氏）

令和三年十二月二十二日に仮殿（神楽殿）にて日本舞踊家の花柳琴臣氏による日本舞踊の奉納が行われました。

花柳氏は、東京都出身で「日本の美しい心・舞・ことば」を伝え、観る者を感動へ誘う舞踊家として国内外で活躍していらっしゃいます。この度、松江観光大使に任命され、近隣の神社で舞踊を奉納されました。

神さまの前で舞踊を奉納する花柳琴臣氏

敬神婦人会による清掃活動

敬神婦人会は、参拝者に気持ちよくお参りしていただけるよう毎月境内の清掃活動を行っています。四月は五反田・南中津地区、五月は東灘・平賀地区、六月は倉本・千鳥町・中市場地区が担当されました。

敬神婦人会は五十名以上の会員が所属。現在はコロナ感染防止のため休止していますが、会員研修として近隣神社への正式参拝、また神社関係上部団体との連携を深める活動等を実施しています。

（４月の清掃風景）

輪越し祭り（夏越（なごし）の大祓（おおはらえ））

令和四年六月三十日（木）市原川（いちのはらがわ）で採った真菰（まこも）で作った茅（ち）の輪が、境内に飾られました。参拝者は人形（ひとがた）を持参し、この「輪くぐり神事」で半年間の罪穢れを祓い清め、これから迎える夏を前に残り半年間の無病息災を祈りました。

お知らせ

穂掛祭・一ツ石神幸祭の開催について

16：00　祭典
17：30　一ツ石神事
19：30　陸行列西掛屋出発
20：30　神輿神社到着
21：00　奉賛花火打上

陸行列は、コロナ感染防止のため規模を縮小し、宮舟と各地区の提灯行列のみで行い地区の陸船は中止する予定です。詳細は別途奉賛会を通じてお知らせします。

※境内にて奉納神楽上演予定

ご寄進札の掲示

御遷宮に向け、皆様方には多大なご寄進を賜り誠にありがとうございます。奉賛者のご芳名を木札にて神社前に掲示させていただきます。

まだまだ御寄進額が不足しておりますので、更なる御寄進をよろしくお願いいたします。